



今日のトピック **メキシコペソは回復傾向が継続**  
**外需主導の景気回復、インフレには注意**

**ポイント1 外需主導の景気回復が継続**

- 米国の力強い景気拡大に引っ張られる形で、メキシコでも景気の回復傾向が続いています。
- コロナウイルスの感染拡大により21万人を超える国民が既に亡くなっていますが、財政政策など政府の景気対策は小粒なものに留まっています。さらにワクチン接種もスピード感を欠くことから、当面は外需主導の緩やかな景気回復に留まるものと見込んでいます。

**ポイント2 インフレの加速傾向に注意**

- 緩やかな景気回復が続く一方で、インフレに加速傾向が見られる点は注意が必要です。これはエネルギー価格の上昇や、前年のインフレ率がコロナ禍により大きく下がってしまったことが原因です。
- メキシコの中央銀行は2019年の夏から金融緩和を続けてきましたが、足元のインフレ水準はその物価目標の上限を上回っています。
- 現状のインフレ水準が続く状況では追加的な緩和は難しくなりますが、一方で短期金利の下げ止まりは通貨ペソにとって一定の下支え効果になると期待できそうです。

今後の展開

**経済正常化でメキシコペソは急落前の水準を目指す展開**

- メキシコペソは米国がけん引する世界経済の正常化期待を映して、昨年春に急落した水準からの回復傾向が続いています。今後も国内経済の正常化や短期金利の下げ止まり、さらに資源価格の上昇による産油国通貨としての再評価の動きから、昨年の急落前の水準を目指す堅調な推移が続くものと見込んでいます。
- 年初から続いてきた米国の長期金利上昇に一服感が出てきたことも、世界的な金融市場の安定化を通じてメキシコの通貨や債券価格の下支えとなるものと考えています。

ここもチェック!

2021年3月29日 **メキシコ、政策金利を据え置き中立姿勢へ**  
2021年2月12日 **メキシコ、政策金利を4.00%へ引き下げ**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

